

---

# 死んだら女になった

灰猫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死んだら女になった

### 【Nコード】

N5965Z

### 【作者名】

灰猫

### 【あらすじ】

宮河紘也は不良の少年だった。しかしある日トラックにひかれ死ぬ。紘也はそこで死んだと思ったが生きていて少女になっていた。そして……………。

この作品は処女作で不定期ですが読んでくれると、とてもうれしいです。

## プロローグ

俺の名前は宮河紘也「ミヤザキヒロヤ」17歳。綺麗な銀髪に黒い瞳。銀髪というのは母さんが外国人で黒目は父さんから受け継いだ。銀髪と言われればいろんな人は羨ましがる人は多いと思う。実際、よく羨ましがられた。俺は銀髪でよかったと思っていた。

しかし、中学1年の入学式に事件が起きた。クラスに入ると俺はクラスのひとつから視線を浴びた。その頃の俺はなかなかの目立ちたがり屋でみんなに見られることはうれしかった。

そして先生がクラスに入ってくる。名前は覚えていない。先生は自分のクラスを見渡す。最初の一声

「なんで貴方、髪を染めてるの!!」

それはひどい話だった。俺の目は少し鋭くその先生からは俺は不良ぶっているように見えたらしい。

俺はそのまま校長室に連れて行かれた。先生は俺の髪が遺伝だと知るとすぐに謝ってきた。俺はすぐに許した。まあ、別に今まで間違われたことはいっぱいあったからだ。今までであったことだから・・・。

そして次の日。クラスに入り自分の席に着く。俺の机には大量の落書きがあった。内容は「不良は学校に来るな」「銀髪とかマジキモイ」など。俺は先生にすぐ言った。そして先生は俺の髪が遺伝だということを知らせる。それでこんなことはなくなると思っていた。だがなくならなかった。それどころかどんどん発展していつて苛めにま で な っ た。水をかけられたり物を隠されたり蹴られたり。仕返しはしなかった。仕返しをしてもどうせ返り討ちにあう。先生にもう一度言おうと思った。だが

「おい！！俺がこんなことしてらっつたら殺すからな」

苛め集団のリーダーはバックからナイフをとりだす。

俺はその次の日から不登校になった。そして路地裏をさまよった。

そして、ある不良集団と出会った。その不良達は意外にも優しく俺の話の聞くと「俺らの組に入らないか？」と誘ってきた。俺の返答は

「うん」

だった。どうせ学校で苛められるしこのままいてもツマラナイからその組に入ることにした。

それから4年後、俺はその組の副リーダーになっていた。

そしてある日。俺は信号を待っていた。青にならないかイライラしながらも赤に光る信号機のライトを見いていた。そして信号は点滅しだした。

後ろから音がする。

自転車が俺にぶつかる。

俺は前方に飛ばされる。

吹き飛ばされる。

右に黒い大きな影ができる。

飛び散る血しぶき。俺の視線は赤と黒に染まっていく。

耳には誰かの声。その声もどんどん小さくなっていく。いや、声が

小さくなったわけではない。

俺は・・・死んだ。

## プロローグ（後書き）

国語の内診が悪い自分ですがよろしくお願いします。  
また感想や誤字脱字などを書いていただけると、とてもうれしいで  
す。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5965z/>

---

死んだら女になった

2011年12月19日22時49分発行